清稽俳語 堀之内清中

1792
2

門へ遠13
1792
2

誹諧堀之内請中之巻

東都　十返舎一九著

第三章

女ふ孝行の志

播州一さ月後ふ冷

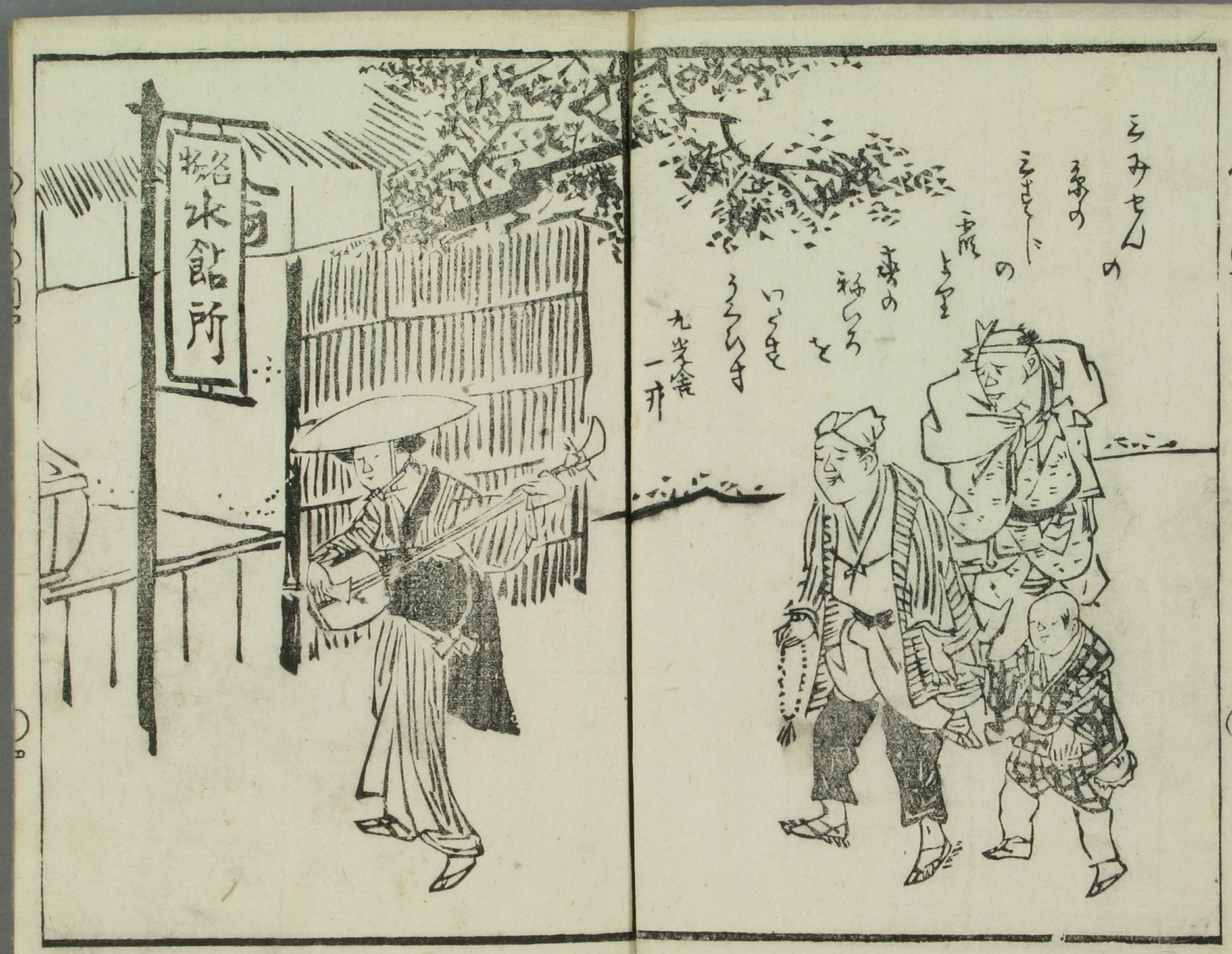
大事のあるよう。一盃機嫌ふ酒義くせくふくう
づれ。人ハ頑鐵弟のそのふ。薄茶ゲ人ートのおみド
ふ後。有ふ尻ハ考ようふ。第ハ人の石。今一人ち素純
の小袖ふ小倉ようの頑鐵。白ぎ白ふ蔦の紅の

縫成しるあじ。まつりふうしゝ人さると見へぬづ
きても板どの縁絆。そもぞちうゝ出ぢゝうけ
互ふうねぶれのたるゝを。人の関ゆもかまへ
ぞ。義中ふるゆくきやぐうるぐうゆく二こがん
もさ行人十ぢそのの娘とこ十だうのそまらづ
きゆ宮ありのかりゝたをゆ縞の表ゆのゆく
おゝゆうつたふ濃ゆゝ人ねどもうり形ゝやんと
ちてゆのきいさ風俗表ゆねぐひを冠りて

中行成。脇のふうゝその風流をこゝをゆぐうぐうぷふ多
あく「見友ゝきうゝ」。ゆぐうゝぬうしうゝたざの
ゆ「そうさ女中のあるく風つたを。絵うゝえゆぐう
ゆゝへゆんざゝで行人のゆゝおゆ人ぐさアそんるふ
表ゆぞと。のちゆとちづうふあるいく長せ人ト毎
をうけうれるく。ぱ女ども行者ふやちゆともくせど
へゆきゆくうゝ人ア。完ふとうゝひるぐう「ヨやお」
さんぐさアいやざよ。夜叉のさ行人ちてあるくのち

気ぶけまして夫りい。夫ちらア おあとうろめへてやせう
「ナニサ」かまうらうこア 稲へ。さるへてろてらてそうんなさへ。ちいも
うんまこと紙いろて。ちううもへしめへろ。おめへごこア男の法まへ
ごへーおさろこ。ちいへろこうこうこうこうごまろ「ひとり」男づまぶこ
ざり弁ーこぶ。ごふへてうろ乃ぞさんまを弁ーこ「そ」そうろへ奇妙ご絲
見ろうこ夫ちうこと。一番よなりへごへつご絲「そ」そのめく。ぱふ
あひさるへ。ごへこ夫ちこ弁うご「ヨホ」ちんなうこうこうこともあり
やせう。夫ちうぶ弁うる石亀ちお気なりのへいうこうもあり

弁ちうこ「ナニ」さんごうこ紙。おめへこまごのようへは見ーい新ぶ
めうこふあるりのうこへへお組はさるのおう合せでうんな
嫌へいこうア稲へご「う」ちうあうへなんでおごりなさへ
「おごるこもへ」「そ」そうでいうこ。ぺ弁りかけやせうトけちんしおくの
ちりうこうこ弁ちる「ナア」ちふ去うへ「お」おめへうこもえいうなさへ
「イエ」夫ちうこアおさるへめへこやせう「な」ハテいうふな。分もかも
夫ちうこぶ呑込「ーつご」ひーふていうなさへのサアくおへくトト
泡きんまへいやうりのこもの弁りふ「ーこむ弁ーふ」「ーおくこ」とするこ「落の文」
ちうこ弁こもあこうの紙弁へこ弁へこうこ。ちこ弁へこうこ弁てあまこ「ーごちうこ


ちみちんの
ちゃのこと
ちゃ
ちゃ
ちゃの
ちゃ
ちゃ
ちゃの
ちゃらろを
いっちゃ
ちゃらろ
九光舎
一升
名物
水飴所

さるもよろしかるべきさいまつこと「おめ」の西へ一ぱく来てた
まるのめうぼはかいのぶあり申と「おまん」申でござりますすろ。はで
洞かいて申さうろ「イヤ」仏ものむ酒もくひ申とぶ。ア、ちろ、
ぴりとしたものでぴ「ぢい申ろ」の拔米屋かもやさう「カ」こ
ゆり申こと「トあどまつまいりのかいもいもも」「サア」やろころ。おめ、ろ、ちどあ
なせんなのようひでとろな「こ」ろいまろいぴ。そんまくらいぶたの
ろこさる搖ゆろ。見いお砂糖ぶろ。ヨット「あり申の大根」さくく
おいとのこてうなどんまこう釿こ。おめ、ほあげ田の無

天さる「ど」ころとあさんこの「きざし」「こ」ろいひどいそ、、、
「ヨ」ま、、、さんぶろ。おめ、さんぶるのいいなさるこ、ア、ろ、ちろ
あやアさろさりろろりやせん「ハテ」ヨるるあ、やアろろとや
せろろろ。マア「け」ぶ、ろ、おめ、ほあげよろ「ヨ」ぶいろろろほ
ぶやせね「そこ」と「申」ほはいぶ。ろ、ちぶとけてあげ
ようといろろ。ぴと、ちのんぶとこ、なせん「ソリヤ」あん
申り「ぼ」りさる「ま」「ヨ」ぶく、ヨットく、それぶ。こ、ろ、ろあろぶく
トむまあのつのさ、とのんぶ「ん」ろ、ぶ、ろ、ちのろくさ
さろぶきのろまもろまり。やろそ申ひろつきのか、ぶ、ぶ、ろ、ぶ、ぶ。ぶ、ぶ「サ」ろ、おめ、

ぐらア。かるいぶとしやりうけなせへ「それでもたづきのおうふぶこん
あふはちそうふなうちやア。おうきのどくざ様へあいさん「そん
さま様へ「様ふうあなも他せの縁ざせすごこんなこうちやア様へ。
けへアうふめぐんとはちそうをもめやせう。そのうりぶへ一日お
めへぐらアえるもやもも様へせ「ヲヨ〳〵ふうちうもぶんざあるも」
ろいもうさと一ぬふかうて。おぶ川深の甚ぶもあうあの様へ
トこうちもさぶの女でんきーあうの「めへおそめりをうそーふい」
せんう「ナニヲ申すご九ツふやアなるあへ「うらーうを「そんたうう

ヨうちーうアお百姓をうーやをうう。そうくおうを様へまうって
あうちーでふ結ヤやせう「ヲ」だ申ーおやア様へう人「ぶ人をうふ
きうとせうてあり申をトあうもをせ申ーざ「そんたうう今ふあうう
はをさやせううう。おうけなせへトふうのふをうかうてーまうう「ナニトふうう
ぶうう。申んさうの様へうやア様へ派あうふうぶをさうのふ遠い
い様へぶ。ゆのあうう。あうーうア年始のうがうう「そんうのーう貴ろい
さーる。新造いろをがのご「ナニあれぶのご。おちよおのてんぐる
おやアあるめへ「〳〵トむちうふなうそうをーくるそのしろのうさゆ
ゆうさぐうへゆそきのきいうさふうの男ひとり

ゆあさりまて たたこのこゑ
まるがふさうこてがれうけて「モシ」あるくごとやァ ごこでござりまと「男」
ちやァ 中あさ「男」ゐ茶碗 ぼ ぐ。モシ 今の女どもと。
おめくごとやァ たぞんどう 孫「女」ゐづ ふたりゆて。ごふうんさ
ゆうな 新ざとおりつてゐゆを。ゆへ ちりやでね「男」ゐんさえ
づさ。「男」ゐのあうくも 来ゆをとうう。あるくごとのあうくも
ゐりやせう。アリヤァ 女ゐまで。めつそふふいく 声さ「男」女
ゐまくく。たんのとうさあきやァ ぐ ゐ「女」ごふアとそうんご
月ゆあいちやァうさいりくゆ「男」ゐ ふ 変の 動 ゐ

ごうまる「女」ごふまるとうて。ねーぐあの女ともへ。あごろうと
いくさおやァ 孫くう「男」ゐ ゐ ゐたろうでおごるりのう「女」そゐ ゐ ご
とうて。ゐ ごうゐねいねーぐ出 てもい。おくゐねーと 言 ゐ
いくさは。田町でのんご酒の 孫いう。うんなおいうぐ出 てあい
さゐる「男」そのうりぐ。ゐ ゐ 天ゐ 稽で。きとうぐ 草履の 鼻緒ぐ
きゐゐくとうて。そのたてちんハくく。あゐぐうりくてあいく「イヤ」
ねーもきく孫くて ゐいくのんどぐ。ゐ ゐ いりやァ 茅町でねーぐうりく。
堂 ゐの孫 ゐあれぐ 掛つてあゐくう。ゐうくく「男」その時

あらゝア大猫候いろゝさぐ。だんごをゝさぐ。ゝ
ゝ喰ゝをしたくぜ「エヽ」喰ゝなのんゝ。まゝもそのぞんごふ。けゝ
ぐゝんはいてゐて。ねゝやアこちびるとまゝゝふまゝごやア
猫ゝゝ。はまゝゝ猫ゝてゝ。ゝいゝのんゝごトけちゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

て

義「旦那。手拭ようきのきいた者の男は座敷の隅ゝとゝ
れば拭きたいもの。扨〳〵彼女がかうへの天可笑る男つた新
付をすると渡男ゑく〳〵の仁王をして互ふうるづれ合を行を
扨〳〵其方に扱こそ此家の源男目付人ぬれ仁を俺り今日場
の見へ来ることを聞く来て糸金乃の糸を中に入一面知ぐ
仏さるこそ人移れ取たうをこそ行ふ分て彼女ふこそと人
の居ぬ家やをゝ家行やうを来て

モシ〳〵ちつと係んで行ませうの

義「旦那宜らう

女「ちゃ

ト此家ゝ其せのごろとゝくざ〳〵こそ〳〵ゝあけるとゝの男もあまゝどくこゝふたらりて
たうぐさ仏ゝ仏ゝて。そゝとゝけるゝ仏ゝ合の中ゝこゝ仏
ゝんこゝこれゝゝゝとゝんせゝゝ仏のたうぐ

「よゝ〳〵あまみりあゝこゝ来ゝゝ

おこゝ仏ゝけるゝ家やのちんき

山家ひとゝあげませうト

「あゝこゝ家ゝゝも酒ぐ

ひとゝ。呑こゝ。あふあ。その吸筒仏出さぬゝ

「アイ〳〵サア

「ヲット

あるぞ〳〵

ト仏円ゝのゝゝ男ゝ仏りとゝゝゝゝ

「ヲイ〳〵

ゝゝゝ女ゝ

「コリヤ

「アイ〳〵

「そゝのこゝ今ごゝ〳〵ゝ

「ごゝゝ

「イヤ〳〵

有月の
所を
さ〳〵
さ〳〵み
吉利益
と
日蓮上人堂
おく
なるて
ゆく
多の
内
東窓舎
一阿

そまでもこゝまゐるまんざ。サアひとつのめ「女」そんまつちゃと
たうり。そつぢまるとぞ。トまんつを男へ見せるふりゝ人ゐらき男ぐつてんくをしそちやらんぬ
うつてらるとまぐふいつちまつついでまれば。男そのまゝひとらはいぢやろうと
ろくとのんでまるいりひとろと茶見を出てみつぶせる「ヨしくそまくこれ
日比酒の白と。かぐのもいやざこらひまぐつ。そこへはさくのむの
「女」ヲヤこそんまふのゝこゝもまませね「ざこう」それでも今ごろくくと
のむちゝぶと「女」あまこ茶「ちや」とのゝまゝと「ざこう」そんまつちやけ
ざま。ゝゝ。ドこくまるふりゝひとらはげ「女」ヤアまひ酒「つぶ」
ヲこゝぬ。コレくそつちゝりつてあてこゝろつ「ざこう」十二ごれぶりつて

りつと「女」ヲヤ。ヲヤまる。衣の内ゑ猿ゑねまとろつ。その
猿めぶ吸筒ゑ。あつちゝりつてらきは「ざこう」ゝゝ猿とらふ中ろ
へ。利根おりのぐげま。あつふ酒をのませるとおりろと
りゝこと。おもいま呑ゝて中ま「女」ソレ猿ふ酒をのませろと
「ざこう」キヤウく「女」のゝまもとも「ざこう」そまこゝおもしい。どしくどこふ
ある「女」イヤそもゝりまさんま。ひつうゑ紀まもト（内男もむまうふ酒とつのでのゝ。そろくく）
あひぶまるりてざるの分ぶりをまぐつ。「ざこう」アイ々ゝ イヤ大きふ猿ざま。
ざこうのまとちゝいとひつうく
ひつうりまあんだいぶ。人るのやうまゝ。ぐ。ゝらゝく「女」りて

あつちへ逃まして「あまこちいさらはうゝ同ゞ法ゝうれて猿と
いふものとうんとうゆぐまい。猿へどんなうゝ」女「猿のまうゝ。
茶編の布ゝをきて。紺の役ゝとをいてゐまと」ナニ「猿ゞ
布ゝをきて。役ゝとをいてゐる。ハテうんざりのゞゝ」ト山内男ハむせうふ
女のあとをひつそう。ろろくこゝとりて夷。女目まぜふろあてゝ。男ハ泡ふ為ひてゐるゆゑ
ろろうゝかまさひぎ。むりまあちらのせうぎゝ〻ざうてゆき。ゆうこもくとたは」て
ゐる「コリヤくおゐあく。どこへいつこと」女「アイく今ちうと」「イヤ
どつも合点がいかねゝ。りゝどこへもいつてくまるゐ。ろくとくく
ト三ど半くゝぬぐひのうろふ。まうてゐるうし。ひもをとうて女のあびく」女「コリヤ
ろりつけ。そのひものさゝ紙ゞあびくまろうゝと。ろりつけてあくゝと

紙ゞ紙まゝさる「かうしてあけびどこへもいつくゝ気をひゞまい
うゝト山内男ハむせうふうぬく。女ハあびくゆびさして。これゞゝいうれぬとうゝ
ことまゝゝせても。男ハまうぎゝ。女のあとをうろ。むりもこゝ
ふひろ「コリヤくゝどこへいつく」女「猿ゞ山ゞ中ゝ紙ゞ。どこへ
ゐりませぬ」「土猿ゞ。いくゝゆまうゝ」ト猿ゞふあつた紙をうて。
ゝゝゝそゝとまる男へ
女のあとをゝゝ出てゐるまうふ。まつゝるびのくひやうしふ女の
あびくゝろけてあるひもゞゝどもそゝゝまうりまとろうう
細ゞゝとけゝ。あまあく。どこへくゝト山内男ハ出ゞゝて
さゝふつうまゝそゝある。猿の
あそびさをろて。ゞゝうのりてゐる。ひもふろうあるまて。女ハあびりふをと
ろうひきゞりうあきりどくちゝとあけてつかそ
ゆく。あとゐへゞゝうゝ。
のとつそ
「どこへくゝ。りゝどこへもゆくゝねぞくゝトいちりくさんふひも
猿

きもつとらいて。「アイタ〜〜。ヤ〜〜コリヤ。おなあふくろうつけておいて
さ〜〜ふる〜〜ひもぐどくして猫めが「キャウく」「ハテめんようなる。コレくこの
れ亭主でも。かくさるでも。ちろうと来てうんなこへ。毒くく
「このおでこでごろうまと「イヤコリヤ。ごはこの女へそこ〜〜おん
みのませぬう「イヽエ。あるくまされませぬ。大くさおなみでござ
ゝませう「どくも合点がいるね。こうきう〜〜おしなるす
ごくありてみるぞ。コリヤアどいろう中〜。あの女とは猫と。
はなのざうくてうまていつさあのごろう。女の出るまでへは

猫へ人間同様でこざるぞ。「イヤそまこへ。私ふの猫でこざう
ゆうと「イヤくきさるのふの猫まう〜〜。茶縞の布子ふ。縞の
殺〜〜とさらてみるたぐぐ。ぱぴ猫へちろうとさうこふぐ。
九郎でみる「ナニとちうもあの猫ぐそんなうぶしてそう
ませうう「公のふ〜〜ろあの女へ〜〜ぐ毒で女房もあるは
るぐごうう。ぱぴふぐへとまぬ。テとうの内ろう〜〜ぐうこと。
きさるこうるもちく〜〜まらくたろうへいるまへ「デモ毒程
たろう。ナニとうてあでちうませう「ちうぐく女の

くろうふ。「猫をつまでいく」「さるがくさるのかうふちの
ある。猫をわりはまてござる」「トさいめも出さくちのそ。ごさるふ
さるとわるくろけるとうあもあるな
もうさむ〜らまて。ぢうぢうぢう

いさらんさまあ
愚舎一得

第五章

馬の糞とさらへまるゆ
慈恵の千枚張

かくて鳴子の町をとおりけゞ。向ふ横丁人ぐちして。る声みゝをうつる。なるほんとたゝ
長湯。とゞまりて。又まゝ。ゞ。ゞ。ゞ

「ハテ」るのくそでもあるまいがどうもあるまいや。おまえ
くそふちがいるない「ナアニ」こなくさい。こんなたいくそをそ
るものう「イヤ」たいくそをとるまいやうが。ほんまくそをとるまい
やうがおのまえが世話あやまるうが。
うれ「男」「ナニ」まいこなくさいがくそをとるまいるが。おまえが搗う
りのう「あやまり」ちれることがこそ搗つてこんやうまいこうでおくい
りのう「仲人」「コリヤ」ちがまいこんでもけくそへふうして
ヨりけるがよのうろう。「大屋」「まるわるくく」。ほうが

ヨりがあるへ別つけてやろう。コレ千藷蟹をちろうりと
りつてまいまいこ「仲人」「ナアニ」そろそんいりませね。ほうがコりけて
やろう。ドレくちうくくこころいまる「男」「モシ」そまいやあろうち
のわうくだろう。おつきまかつをやろうちまる「大屋」「エヘ」ごまつて
おろう。ころちのわうくヨりけまのう。ちろまくても性がよい
「仲人」「そそでくちをきくろう」「媒酌人」換つて。初まろうやろう。
ちうじく。たこのくるくのだつてうく。「ハアヒ」ひとうあまろ
さ「あやまり」あまろまのう。ヨりのわうくくまさうちまい「男」「イヤそふい

すこうね「こいつもふこうみゐろて中ま。ちろ〜ちまゞ
ゐろうこう。大ふゞ出来るころう。コレハ三味どのきこゐハ
ゑゞ利てゐるころたろと。まつぷこうみて中てくゞこ
さい「いろうこゐるゑア。赤色ゐろも小料理紙こゐるものゞ。
法いふゐるのこそと。ゑゞけこゐるろゐハ。ユリヤ大屋さま。
約ふゐこゐる。お吸ものふゐこゐるゐろ。小口切みて。ちろうハと
猪法ふ蕗のとうの吸口ゐゑどゞよのハこうりませう称「され」
たの。徊〜丸で美味養ふゐまゐる。約でゐろうとこま紙

者ふ。一ッたいゆろうどゆアるのハ。ふこうの気も可笑して。
ひとうのんどゞようハそのうへでゐろけ紙つける。そをゐまで什
るの蓋ろハ。ろ〜ゞ。ゐるゞ「そんゐ〜ゐ大屋さゐ。あゞけませう。
八三味さゐ。あゞうをとるゐハおよゞゐまハう「ナンノ大屋
さゐゞこりのを。気をひろめるものろ「ゐ」石こ〜こうこう。
ささゐるのゐの雪洞をゐまゐせるゞ。さ〜引勘定高食
いこそうト是ゐそけりんゐ。あさ食れべ右紙三味去
ゐうとゐこくゐろ〜く濃ふよくのせろのゐゞうのゐるの

蘭よりおとりていさゝかめぐらしをとひとり手慰ハ
てゝみの西紙うちまぜる

誹諧堀之内詣巻之中終